

令和3年3月5日

品川区議会議長

渡辺裕一様

行財政改革特別委員会

委員長 あくつ 広王

行財政改革特別委員会の活動現況について

今期の行財政改革特別委員会では、「区有施設、公有地等の活用に関すること」、「水族館の運営計画に関すること」、「危機管理に関すること」、「財源確保に関すること」および「働き方改革に関すること」の5件を調査事項とし、以下のとおり委員会活動を実施しております。

「区有施設、公有地等の活用に関すること」では、まず、6月に旧荏原第四中学校、平塚二丁目寄付物件、旧東品川清掃作業所および旧第一日野小学校跡地の現状について、理事者より説明を受けました。

11月には、旧第一日野小学校跡地の暫定活用について、理事者より、荏原複合施設の大規模改修および中原保育園・児童センターおよび東五反田保育園・児童センターの老朽化に伴う改築のための仮移転先として活用する案が固まったとの説明があり、議論の中において本活用案の内容について確認が行われました。

1月には、国家公務員宿舎小山台住宅等跡地の取得状況について、理事者より、国有地・都有地の一部の境界確定が難航しており、来年度の用地取得に向けて引き続き国・都との協議を進めていくなどの説明があり、具体的な進捗状況や国の解体工事の実施に際して近隣住民へ丁寧な対応を行っていくことなどを確認しました。

「水族館の運営計画に関すること」では、しながわ水族館を視察し、30周年を迎えるしながわ水族館の今後の計画について、さらなるにぎわいの創出の観点から調査・研究を深めて参りました。

12月のしながわ水族館の視察では、バックヤードにおけるスタッフの仕事などの説明を受けてから施設を見学した後、館長等との意見交換を行いました。

1月には、しながわ水族館顧客満足度満点プロジェクトにおける魅力向上策の検討内容について理事者より説明を受け、12月の視察の内容を踏まえて議論し、今後のしながわ水族館のあり方について、委員から様々な意見が挙げられました。

「危機管理に関すること」では、全庁的な危機管理対応について着目し、平時からの備えや新型コロナウイルス感染症対策本部の取組み状況などについて理事者より説明を受けました。質疑応答では、今般の新型コロナウイルス感染症対策本部についての情報共有や情報発信方法に関する意見等が挙げられ、今後の危機管理対応のあり方について議論が交わされました。

「財源確保に関すること」では、税外収入を主なテーマとして調査・研究を行い、理事者より、財源確保のあり方について説明を受け、ふるさと納税、ガバメントクラウドファンディング、ネーミングライツなどといった税外収入を確保する取組みに関する区の考え方を確認しました。その後の議論においては、税外収入の確保の必要性について、委員間で見解が分かれました。

「働き方改革に関すること」では、「テレワーク」と「チャットボット、ICT」という2つのテーマに分けて、調査・研究を行いました。

「テレワーク」については、まず理事者より、テレワークが推進されている背景、新型コロナウイルス感染拡大防止のために実施した在宅勤務の実施状況や、今後テレワークに取り組む場合の課題などについて説明を受けました。その後の議論では、テレワークの導入にあたり重視すべきポイントなどについて意見交換をしました。

次に、「チャットボット、ICT」については、ICTの活用に係る社会的背景、これまでの区の取組みや、今後の区のICT活用方針について説明を受けました。議論の中では、区民サービスの向上につながるICTの活用について、様々な観点からの意見が挙げられました。

これらの調査・研究をふまえ、今後の品川区の行財政改革の推進に活かしていただくべく、本委員会としてのまとめを作成し、提出いたします。

以上が、これまでの当委員会における活動現況の概要でありますので、ご報告いたします。

令和3年3月5日

品川区議会議長

渡辺裕一様

オリンピック・パラリンピック推進特別委員会

委員長 石田 ちひろ

オリンピック・パラリンピック推進特別委員会の活動現況について（報告）

今期のオリンピック・パラリンピック推進特別委員会（以下、「委員会」という。）は、「機運醸成に関すること」、「レガシー政策に関すること」、「アリーナ・障害者スポーツ施設に関すること」、「文化プログラムに関すること」および「環境・リサイクルに関すること」を調査事項とし、昨年引き続き設置されました。議会運営委員会での議論をふまえた各項目について調査を進め、特に今期は、理事者への質疑にとどまらず、委員間討議を中心に行ってまいりました。

具体的な調査・研究の内容といたしましては、まず「機運醸成に関すること」については、東京2020大会が新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催延期となったことに伴い、大会へ向けた区の事業予定の見直しや新たな取組等について議論を行ってまいりました。

次に「レガシー政策に関すること」については、区独自ボランティア「しな助」および品川区内開催競技・区応援競技であるホッケー、ビーチバレーボール、ブラインドサッカーの3競技について、調査・研究を進めてまいりました。区独自ボランティア「しな助」については、東京2020大会延期や新型コロナウイルス感染拡大の影響で活動がままならない中での活動の方策、さらに大会後の展開について議論を行ってまいりました。3競技については、ビーチバレーボールの競技会場である都立潮風公園を視察し、大会を契機とした3競技の振興、普及、応援に関する取組、そして大会後を見据えたレガシーの創出等に関して、様々な提案を行ってまいりました。

次に、「アリーナ・障害者スポーツ施設に関すること」については、23区を中心とした都内の施設状況等について理事者から説明を受け、アリーナ・障害者スポーツ施設のあり方について委員間で討議を行い、研究を進めてまいりました。

次に「文化プログラムに関すること」については、新型コロナウイルス感染拡大によるイベントの中止・延期等で多大な影響が生じている品川区の文化芸術事業や文化プログラム参加団体の現状と今後の取組について、理事者から説明を受け、関係団体に対しどのような支援ができるかなどの議論を行ってまいりました。

最後に、「環境・リサイクルに関すること」については、廃プラ・CO2削減、集団回収を含む品川区としての環境・リサイクルに関する取組、さらに、みんなのメダルプロジェクトなど、東京2020大会に関連した事業について、理事者から説明を受け、各種事業・取組をより一層推進するための様々な提案を行ってまいりました。

これらの調査・研究をふまえ、品川区のオリンピック・パラリンピックの推進に活かしていただくべく、本委員会としてのまとめを作成し、提出いたします。

以上が、これまでの当委員会における活動現況の概要でありますので、ご報告いたします。